



ケンブリッジ英検 Cambridge English

ケンブリッジ大学英語検定機構
日本支部長 青山 智恵

1



ケンブリッジ英検の特徴

- 生涯にわたって英語を学習する視点で作られた試験。生徒の進路や目的に応じてレベルを選択できる利点
- 英語運用能力の向上を支援するという、教育的な目的をもって設計されている試験
- 全ての試験で4技能を測定
スピーキングは受験者**2名のペア**で受ける**対面式テスト**
- 高い国際通用性－世界基準の**ヨーロッパ共通参照枠(CEFR)に準拠**
- 生涯有効の国際資格
- **学習指導要領との親和性**がある
キー(KET: A2レベル)はもともと**日本の高校生を対象に**1988年に作られた**日本生まれのテスト**

2



生涯にわたり英語学習をサポート

資料1: ケンブリッジ英検と英語教授法認定資格

英語運用能力テスト:

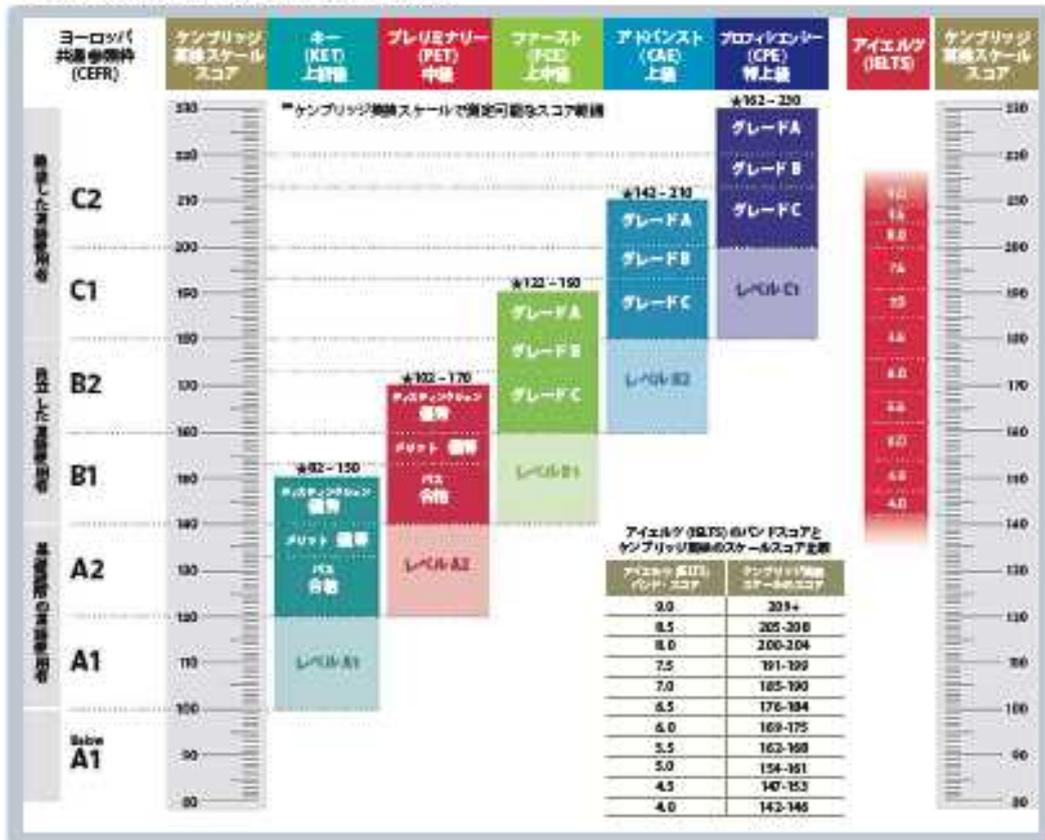
児童英検、中高生対象英検、成人学習者対象英検、
ビジネスパーソン対象の英語テスト、
留学・移住目的のためのテスト など



1) 試験の目的・内容・出題意図の概要

資料2: ケンブリッジ英検とスケールスコアについて

ケンブリッジ英検スケールと各試験のスコア比較表





進路・目的に応じて受験レベルを選択

First (B2) ファースト	Advanced (C1) アドバンスト	Proficiency (C2) プロフィシエンシー
<ul style="list-style-type: none"> 海外の高等教育機関のフアウンデーションコース入学レベル 英語を使う職場で働けるレベル グレードAで合格の場合C1と同等 	<ul style="list-style-type: none"> 海外進学(学部、大学院)・就職 世界で4,000機関以上が認定、活用。 グレードAで合格の場合C2と同等 	<ul style="list-style-type: none"> 海外進学(学部、大学院)・就職 あらゆる種類の英語に対処できるマスターレベルの英語力



IELTS対策にも役立つケンブリッジ英検

- 12歳から17歳まで約6年間ケンブリッジ国際児童英検、KET、PET、FCE、CAEの勉強と受験
- 他の英語テストの受験経験無し
- 小・中・高校2年生の春までは神戸市内の私立学校に席を置いていたが、2年生の夏に公益社団法人 [ユナイテッド・ワールド・カレッジ\(UWC\)の奨学生](#)に選ばれインドマヒンドラカレッジに留学。現在はアメリカコネチカット州にあるWesleyan Universityに在籍中。
- UWC奨学生に選ばれるまでは海外長期留学経験無し
- 2012年5月にCAE 合格 (スコア 63/100:グレードC)
- IELTS スコア8.0

(米国大学に出願時、大学が英語力の証明としてTOEFLもしくはIELTSのスコア提出を求めたため、IELTSを受験し、提出)

(IELTSのための)特別な勉強はしませんでした。実際受けてみた時に思った事ですが、**ケンブリッジ英検に非常に形式が良く似ていました。結果的にケンブリッジ英検を受けていた事がとても役立ったと思います。**

(神戸出身 M.I.さん
現在、米国Wesleyan University 在学中)



受験者をペアにしてテストする対面式スピーキングテスト 例 (プレリミナリー: 中級) CEFRレベルB1

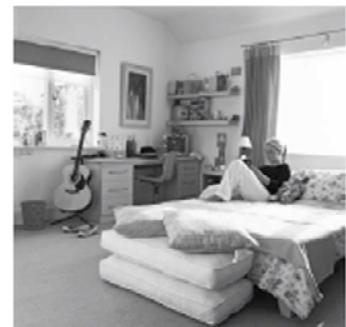
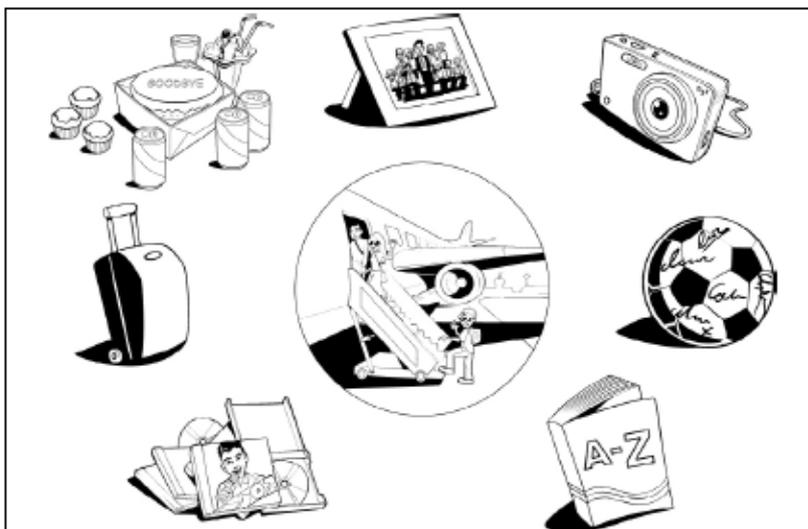
内容 (例題)	所要時間 10~12分間
パート1 試験官は受験者にお互いを理解するための質問をする 名前、名前の綴り、「学校で英語を勉強していますか?」「英語は好きですか?」等の質問を2名の受験者にする	
パート2 ある状況についてもう一人の受験者と会話する 転校する友達に送るプレゼントとしてイラストのうちどれが良いか二人で相談して選ぶ(議論して決定するプロセス)	
パート3 それぞれ異なる写真が与えられ、それを見て1分間相手に説明する ティーンエイジャーの寝室の写真について説明する	
パート4 パート3のテーマについて議論しながら、再びもう一人の受験者と意見交換 自分の寝室にあるものについて、ペアで話し合い、今後寝室に欲しいものについて説明する	

Cambridgeenglishtv: www.youtube.com/user/cambridgeenglishtv



プレリミナリー(B1)のスピーキングのサンプル問題

転校する友達への
プレゼントにどれを選ぶ?



ティーンエイジャーの寝室の写真→



2) ケンブリッジ英検とCEFR

CEFRの生みの親であるBrian North博士のインタビューより抜粋

出所: www.cambridgeenglish.org/why-cambridge-english/international-language-standards/

- 共通参照枠の開発者の一人であるブライアン・ノース氏は、次のように語ります:

「わたしたちは、試験とこの参照枠の関係に関して試験委員会による申し立て内容について検証し始めたところです。関係が何であるかということをよく理解しているということと、それを確かにするということは、別のことです。**ケンブリッジ大学英語検定機構は、CEF (ヨーロッパ共通参照枠) のレベルとケンブリッジ英検各試験のレベルの間に関連があるため、例外とされます。**」(ブライアン氏とのインタビュー、ELT News、2006年2月)

Cambridge English and the CEFR (原文より抜粋)

- Cambridge English Language Assessment was involved in the development of this standard. Brian North, one of the authors of the Framework, has said that:

“We’re really at the beginning of the process of validating the claims which are made by the examination boards about the relationship of their exams to the Framework. There is a difference between having a very good idea of what the relationship is and confirming it. **Cambridge ESOL is an exception, because there is a relationship between the levels in the CEF [Common European Framework] and the levels of the Cambridge ESOL exams.**” (Interview with Brian North in ELT News, Feb 06.)

9



出題レベル

- 目標言語領域
 - 語彙レベル
- 資料3: ケンブリッジ英検 各レベルのTLU (目標言語領域)について

ヨーロッパ 共通参照枠 CEFR レベル	ケンブリッジ英検 各試験	語彙サイズ (イングリッシュ・ボキャ ブラリー・プロフィールの headwordsでカウント)
A1	Starters (国際児童英検スターターズ)	779
A2	KET	1,558
B1	PET	2,955
B2	FCE	4,666
C1	CAE	6,541
C2	CPE	Approx. 7,000

10



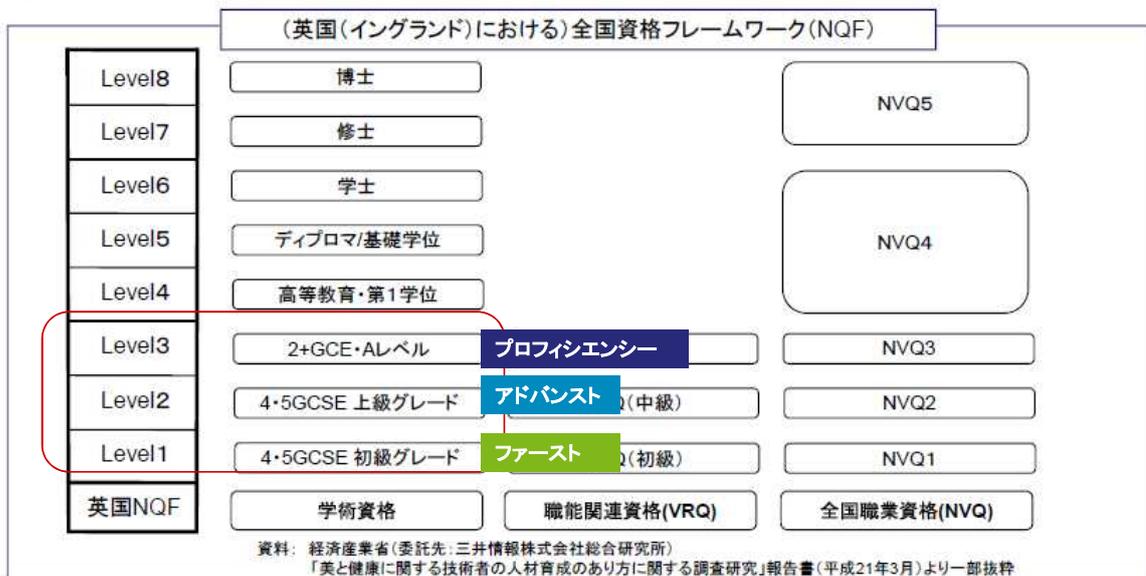
認定証

CEFRとの関係からファースト(B2)以上の認定証には、イングランドの全国資格フレームワーク(「英国資格指標」)のレベルも記載される



イギリス(イングランド)における職業資格と学位等の資格枠組み(2002. 9~)

学術資格と職業資格の峻別が、社会的に負の結果をもたらしているという報告書※1が1997年に出され、これに応じて政府は新しい資格フレームワークの整備を進めてきた。イングランドでは1997年にQCAが設立され、「全国資格フレームワーク(National Qualifications Framework: NQF)」を整備(「イギリスにおける地域人材の育成と認証システム」 小山善彦(2004)より一部抜粋) ※1 Report of the National Committee of Inquiry into Higher Education, July 1997(Dearing Report)



文部科学省 生涯学習分科会資料より抜粋
www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2010/05/25/1293956_4_1.pdf

NQF Level	CEFR Level	GCSE/A-Level	Example Cambridge English Award
Level 3	C2	A-Level	Cambridge English: Proficiency (プロフィシエンシー)
Level 2	C1	GCSE Higher Pass Grades A*-C	Cambridge English: Advanced (CAE) (アドバンスド)
Level 1	B2	GCSE Grades D-G	Cambridge English: First (CE) (ファースト)

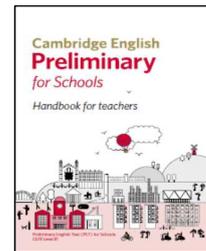


Can Do statements

Examples of Can Do statements at Level B1

Typical abilities	Reading and Writing	Listening and Speaking
Overall general ability	CAN understand routine information and articles. CAN write letters or make notes on familiar or predictable matters.	CAN understand straightforward instructions or public announcements. CAN express simple opinions on abstract/cultural matters in a limited way.
Social and Leisure	CAN understand factual articles in magazines and letters from friends expressing personal opinions. CAN write to his/her friends about the books, music and films that he/she likes.	CAN identify the main points of TV programmes on familiar topics. CAN talk about things such as films and music and describe his/her reaction.
School and Study	CAN understand most information of a factual nature in his/her school subjects. CAN write a description of an event, for example a school trip. CAN take basic notes in a lesson.	CAN understand instructions on classes and homework given by a teacher or lecturer. CAN repeat back what people say to check that he/she has understood. CAN give detailed practical instructions on how to do something he/she knows well.

- Can Doを作成したALTE(ヨーロッパ言語テスト協会)の創設メンバーとして、実際生活する上で使う英語スキルを測るための枠組みとして利用



出所: Cambridge English: Preliminary for Schools Handbook for Teachers



国際通用性: 他国との比較可能

First language



The figures below show what percentage of candidates achieved each grade according to the candidate's first language. The top 25 languages by candidature are shown.

© UCLES 2014
*53327

First language	Grade A	Grade B	Grade C	Council of Europe Level B2
Albanian	3.7%	11.0%		36.8%
Arabic	4.2%	13.3%		
Basque	1.3%	7.2%		
Bulgarian	11.4%	21.6%		
Catalan	3.2%	13.1%		
Chinese	9.0%	15.1%		
Croatian	20.2%	22.1%		
Czech	11.4%	23.3%		
Dutch	17.1%	32.2%		
French	6.3%	17.6%		24.8%
German	11.0%	22.5%	35.9%	20.7%
Greek	2.1%	12.8%	39.7%	37.2%
Hungarian	13.4%	21.8%	41.9%	19.8%
Italian	7.4%	16.8%	45.3%	27.4%
Japanese	0.0%	2.9%	23.5%	56.4%
Korean	1.4%	3.5%	24.3%	56.0%
Polish	10.1%	23.0%	45.3%	19.7%
		20.0%	46.9%	22.6%

アドバンスト(C1)をグレードAで合格した日本人は0%。グレードB合格も全体の2.9%であることが分かる

3)学習指導要領との関連性 (中学校①)

<p>中学校学習指導要領 第2章各教科 第9節外国語</p>	<p>ケンブリッジ英検 KET(A2) 中高生対象</p>
<p>第1 目標 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。</p>	<p>[Handbook for Teachers: Language specificationsより引用] KETは、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4つのスキルを測るテストで、合格者はさまざまな日常生活の場面で、相手が英語母語者であってもなくても、基本的なコミュニケーションのニーズを満たすことができます。(able to satisfy the basic communicative needs in a range of everyday situations)</p>
<p>第2 各言語の目標及び内容等 英語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。</p>	<p>リスニング: 約30分 適度にゆっくりと話している話し言葉やアナウンスメントが理解できる。重要な情報を拾い出し、キーワードを頼りに、それほど重要ではないことばは気に留めずコンテキストから意味を推論する聞く力をのばす。</p>
<p>イ 話すこと (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。 (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。 (エ) つなぎ言葉を用いる等のいろいろな工夫をして話を続けること。 (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。</p>	<p>スピーキング: ~10分 試験官2名、原則受験者2名のフォーマットで実施される。質問役の試験官は全体評価のみ、もう一人の試験官は① Pronunciation(発音) ② Grammar and Vocabulary(語いと文法) ③ Interactive communication(双方向コミュニケーション)の3つの評価スケールで、試験官と受験者、受験者間でのやりとりが採点される。③では、積極的に会話を発展させようとしているかどうか(Development of the interaction)も評価項目となっている。</p>

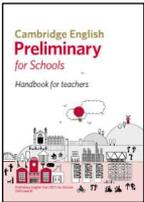
学習指導要領との関連性 (中学校②)

<p>中学校学習指導要領 第2章各教科 第9節外国語</p>	<p>ケンブリッジ英検 KET(A2) 中高生対象</p>
<p>ウ 読むこと (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。</p>	<p>リーディング & ライティング: 約70分 Part 4 やや長めの文章について、本題やある程度詳細を理解することができるかどうかを測る。文章は新聞、雑誌、短い物語文等からとられる。</p>
<p>エ 書くこと (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。 (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。</p>	<p>リーディング & ライティング: 約70分 Part 9 メモ、メール、ポストカードのいずれかのフォーマットで、短いメモを読み、それに含まれる3つの手がかりを参考にして25~35語で完成させる。</p>
<p>(2) 言語活動の取扱い ア 3学年間を通じ指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。(中略) (ウ) 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。 〔言語の使用場面の例〕 省略 〔言語の働きの例〕 a コミュニケーションを円滑にする ・ 呼び掛ける ・ 相づちをうつ ・ 聞き直す ・ 繰り返す など</p>	<p>スピーキングの評価スケールの一つである、“interactive communication”(双方向コミュニケーション)という観点で評価される項目で、いわゆる実践的なコミュニケーション能力の根幹となる部分。さらに「双方向コミュニケーション」は以下の4項目をベースに測定。 ① Development of the interaction(積極的な会話の展開) ② Initiating & Responding(会話のイニシアチブ、相手の発言への反応) ③ Prompting & Supporting(相手の発言を引き出すスキル) ④ Turn and Simple exchange(役割の交代: 質疑応答、提案と同意)</p>

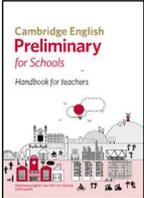
学習指導要領との関連性 (中学校③)

<p>中学校学習指導要領 第2章各教科 第9節外国語</p>	<p>ケンブリッジ英検 KET(A2) 中高生対象</p>
<p>(3) 言語材料 ウ 語, 連語及び慣用表現 (ア) 1,200語程度の語 (イ) in front of, a lot of, get up, look forなどの連語 (ウ) excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcome, for exampleなどの慣用表現</p>	<p>[KET Vocabulary Listより] ・ 語い数: 1,357語 (2012年版) ・ (イ)、(ウ)は'I see'以外すべて網羅されている。</p> <p>[Research Notes Issue 41/2010年8月号] P.20 'A mixed-method approach towards investigating lexical progression in Main Suite Reading test papers'</p>  <p>KETのリーディング・テストには ・ 合計800語 ・ 1テキストあたり最大で250語 ・ 1ペーパーあたり4テキスト</p> <p>EnglishProfile Reference level descriptions for English</p> <p>☞ 1,200語の選定をする際、欧州評議会登録の公式の英語プロファイリングプロジェクトである「English Profile」での弊機関の知見を共有することも可能です。</p>
<p>3 指導計画の作成と内容の取扱い 才 語, 連語及び慣用表現については、運用度の高いものを用い、活用することを通して定着を図るようにすること。</p>	<p>“900語程度から1200語程度に増え、「運用度の高い」「活用する」「定着を図る」などは、上記のように「日常生活の場面について話すのに適切な語彙を使用する」ことを4技能でのばすケンブリッジ英検を指導目標とすることによって達成できる内容といえます。”</p> <p>出所: ケンブリッジ英検 試験官チームリーダー 白井 雅裕 先生 同志社女子中学校・高等学校 教諭、同志社大学文学部嘱託講師)</p>

学習指導要領との関連性 (高校①)

<p>高等学校学習指導要領 第8節外国語</p>	<p>ケンブリッジ英検 PET (B1) 中高生対象</p>
<p>第1款目標 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>[Handbook for Teachers: Language specificationsより引用] PETは、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4つのスキルを測るテストで、合格者は日常生活のほとんどの場面で、相手が英語母語者であってもなくても、満足のいくコミュニケーションができます。(able to communicate satisfactorily in most everyday situations)</p>
<p>第2 コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。 ア事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 イ説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 ウ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 エ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p> <p>第7 英語会話 2 内容 エ海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。</p>	<p>PETの受験者は: ・ 複雑でない指示や公共放送を聞いてその概要や要点を理解できる ・ 英語圏へ旅行した際に遭遇するたいいの状況に対処できる ・ 簡単な質問ができ、家族や友人との会話、あるいは学校で事実に基づく会話であれば参加できる ・ 手紙やメールを書いたり、良く知っている内容についてノートをとることができる</p>  <p>Cambridge English: Preliminary for Schools Handbook for Teachers: Who is the exam for? (Page 3)</p>

学習指導要領との関連性 (高校②)

<p>高等学校学習指導要領 第8節外国語</p>	<p>ケンブリッジ英検 PET (B1) 中高生対象</p>
<p>第7 英語会話 2 内容 (1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。 ア相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。 イ関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。 ウ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。 エ海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。</p>	<p>PETの受験者は： ・複雑でない指示や公共放送を聞いてその概要や要点を理解できる ・英語圏へ旅行した際に遭遇するたいていの状況に対処できる ・簡単な質問ができ、家族や友人との会話、あるいは学校で事実に基づく会話であれば参加できる ・手紙やメールを書いたり、良く知っている内容についてノートをとることができる</p> 
<p>第3款 英語に関する各科目に共通する内容等 [言語の使用場面の例] a 特有の表現がよく使われる場面： ・買物・旅行・食事 ・電話での応答・手紙や電子メールのやりとりなど b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面： ・家庭での生活・学校での学習や活動・地域での活動 ・職場での活動など c 多様な手段を通じて情報などを得る場面： ・本、新聞、雑誌などを読むこと・テレビや映画などを観ること ・情報通信ネットワークを活用し情報を得ることなど</p>	<p>[PETの代表的なトピック] Clothes Personal identification Daily life Places and buildings Education Relations with other people Entertainment and media Services Environment Shopping Food and drink Social interaction Free time Sport Health, medicine and exercise The natural world Transport Hobbies and leisure Travel and holidays House and home Weather Language People Personal feelings, experiences and opinions [Preliminary for Schools Handbook for Teachers] Page 6</p>

19

学習指導要領との関連性 (高校③)

<p>高等学校学習指導要領 第8節外国語</p>	<p>ケンブリッジ英検 PET (B1) 中高生対象</p>
<p>[言語の働きの例] a コミュニケーションを円滑にする： ・相づちを打つ・聞き直す・繰り返す ・言い換える・話題を発展させる・話題を変えるなど</p>	<p>スピーキング: 10~12分 試験官2名、原則受験者2名のフォーマットで実施される。質問役の試験官は全体評価のみ、もう一人の試験官は①Pronunciation(発音) ②Grammar and Vocabulary(語いと文法) ③Interactive communication(双方向コミュニケーション)そしてPETでは新たに④Discourse Management(談話マネジメント)が加わり、4つの評価スケールで、試験官と受験者、受験者間でのやりとりが採点される。④では、話す内容に論理的に首尾一貫性が見られるか、(coherence and cohesion)、関連性(relevance)があるか、同じアイデアの繰り返しをするだけで(repetition)、トピックを発展させる新しいアイデアの導入はあるか、などが評価項目になる。</p>

スピーキングの評価スケールの一つである、“interactive communication”(双方向コミュニケーション)で評価される項目
Cambridge English: Preliminary for Schools Handbook for Teachers: Paper 3 Speaking (Page 52)

- ①Development of the interaction (積極的な会話の展開)
- ②Initiating & Responding(会話のイニシアチブ、相手の発言への反応)
- ③Prompting & Supporting(相手の発言を引き出すスキル)
- ④Turn and Simple exchange(役割の交代: 質疑応答、提案と同意)

“コミュニケーションを円滑にする言語の働きの、相手との関係を築きながらコミュニケーションを開始し維持する働きであり、中学校においても扱われています。高等学校においては、さらに、「言い換える」、「話題を発展させる」、「話題を変える」が例として挙げられています。(高等学校で)適切な表現を選択し、意見の交換などをより円滑に進める工夫を行えるよう「指導する」ことで中学校からの発展的な移行が目指されていることから、ここでもケンブリッジ英検を指導目標だけでなく評価基準として活用することで教育効果を上げることが期待できると思います。”

出所:ケンブリッジ英検 試験官チームリーダー 白井 雅裕先生
同志社女子中学校・高等学校 教諭、同志社大学文学部嘱託講師)

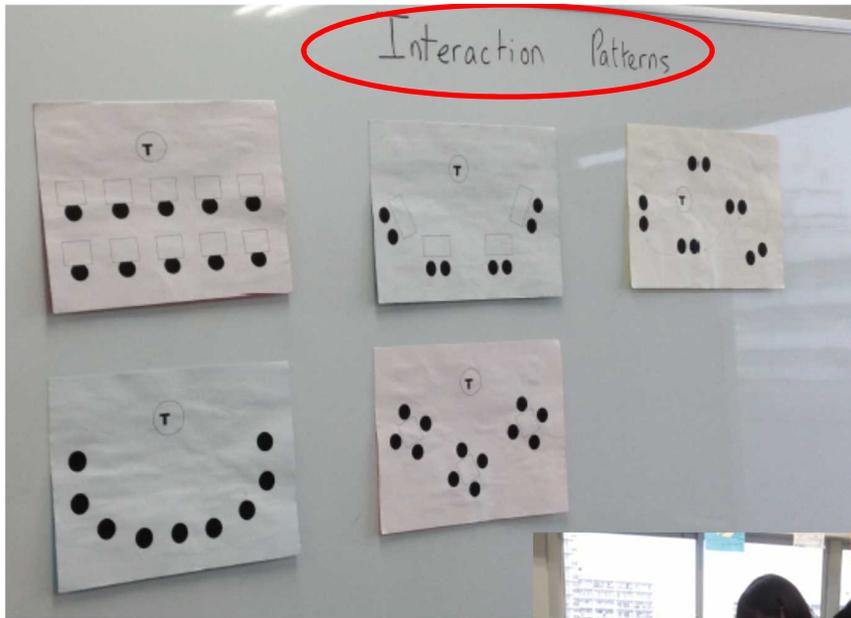
学習指導要領との関連性 (高校④)

<p>高等学校学習指導要領</p> <p>第8節外国語</p> <p>2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するためにふさわしいものを適宜用いて行わせる。その際、「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、言語活動と効果的に関連付けながら、ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。</p> <p>ア語、連語及び慣用表現</p> <p>(ア) 語</p> <p>a 「コミュニケーション英語Ⅰ」にあつては、中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語</p> <p>b 「コミュニケーション英語Ⅱ」にあつては、aに示す語に700語程度の新語を加えた語</p> <p>c 「コミュニケーション英語Ⅲ」にあつては、bに示す語に700語程度の新語を加えた語</p> <p>d 「コミュニケーション英語基礎」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」及び「英語会話」にあつては、生徒の学習負担を踏まえた適切な語</p> <p>(イ) 連語及び慣用表現のうち、運用度の高いもの</p>	<p>ケンブリッジ英検 PET (B1)</p> <p>中高生対象</p> <p>[PET Vocabulary Listより]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語い数: 2,822語 (2012年版) (既出も含む) <p>[Research Notes Issue 41/2010年8月号] P.20 <i>'A mixed-method approach towards investigating lexical progression in Main Suite Reading test papers'</i></p>  <p>PETのリーディング・テストには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合計1,600語 ・ 1テキストあたり最大で550語 ・ 1ペーパーあたり5テキスト <p>【ご参考】その他のレベルのリーディング・テストについて</p> <p>First (B2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合計2,000語 ・ 1テキストあたり最大で700語 ・ 1ペーパーあたり3テキスト <p>CAE (C1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合計3,000語 ・ 1テキストあたり最大で1,100語 ・ 1ペーパーあたり6テキスト <p>CPE (C2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合計3,000語 ・ 1テキストあたり最大で1,100語 ・ 1ペーパーあたり9テキスト (現在は上限3,400語)
---	--



4) 中学・高校・大学等との連携による 取組事例・概要

相山女学園大学教育学部 「幼児・児童英語教師養成プログラム」	
コース内容	毎日40分 週5回(月～金曜日)、通年実施、100回レッスン3単位
コース評価にケンブリッジ英検を活用	キー(KET)およびプレリミナリー(PET)を1～2年次必修で受験。
英語運用能力テスト(KET & PET) ↓ 英語教授法に関するテスト(TKT)	幼児・小学校英語指導者をを目指す学生は、引き続き選択でTKT(英語教授知識認定テスト)を3年次に受験。(3年次選択)



【ご参考】

梶山女学園大学教育学部 TKT (英語教授知識認定テスト)をベースにした演習授業風景より

‘Interaction Pattern (学習者が一緒に取り組むさまざまな方法)’がテーマ



その他の事例①



Nagasaki Junshin Catholic University

5月と11月にKET受験

- ネイティブの先生から長崎純心大学英語情報学科34名の生徒の英語力評価に「ケンブリッジ英検を活用したい」との声があがり、現在に至る。理由は「素の英語力」が測れるから



11月にKET/PET for Schoolsを受験

学校法人 原田学園 **鹿児島情報高等学校**

- e-プレップ科 1年生22名全員受験
- 4月から3カ月間のニュージーランド留学するにあたり、ニュージーランドの高校側に生徒の英語のレベルが分かる資格を提示するため活用。



その他の事例 ②

かえつ有明中・高等学校

KAETSU ARIAKE JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

11月にPET for Schoolsを受験

- ケンブリッジ英語研修を毎年3月に実施。ネイティブの先生がイギリス出身。
- 中1から英語を学び始めた生徒の目標は「アドバンスト」クラスに入れるよう頑張ること。入ったらPETを受験するよう奨励。
- ご担当の先生のお話：
“「アドバンスト」に入った生徒の頑張りを称えるには、スコアで結果が示される試験ではなく、「認定証（サーティフィケート）」が発行されるケンブリッジ英検の方が相応しいと考えました”

25



5) 今後の取組み等

資料5: ケンブリッジ英検認定試験センターおよび2015年試験日程(グローバル)

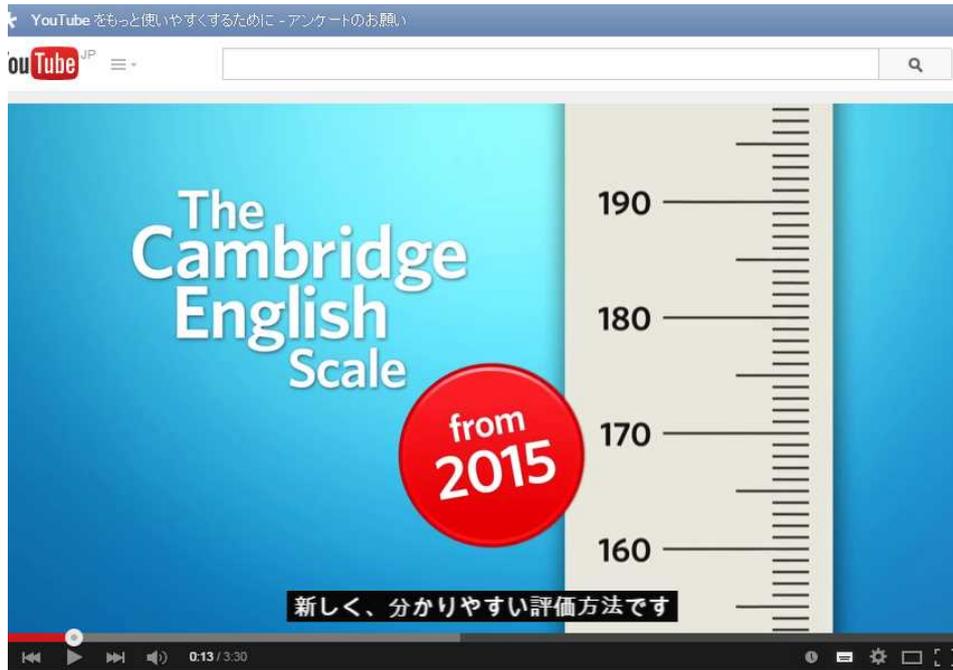
- 現在、日本にあるオープン・試験センターは6
- 今後会場数を拡大する予定あり
- 学校を会場として団体受験する場合は団体割引が可能



26



評価がより分かりやすく → ケンブリッジ英検スケールの導入



<http://youtu.be/jFqfgA4mx9U?list=UUnXqRankqlC47qzXcYMazKA>

27



CB版テストについて

- コンピューター版テストとペーパー版テスト両方あり
- スピーキングテストはCB版も対面式テストであるため、あまり費用面で差は生じない。
- 日本ではCB版を扱う試験センターがない現状
- 国際児童英検が対面式によらない(録音された)音声を試験官が採点するシステムのCB版を昨年リリースした実績があるため、今後の展開が待たれるところ。



Admissions
Testing Service
Measuring Potential

学生の潜在的な能力を測るテスト

Thinking Skills Assessment (TSA): 思考力測定テスト
問題解決能力 (problem-solving) と批判的思考力 (critical thinking) を測るテストとしてケンブリッジ大学が2001年にスタート。

- 現在は医療系学部を志望する優秀な学生の選抜試験に活用
- TSAと理数の基礎知識を組み合わせた試験
- 英国のみならず海外で大学入試の一部として採用

採用している大学



29



TSAのサンプル問題(日本語訳)

例題1)

どれだけ道路を使うかに関係なく、ドライバーひとりひとりが同額の道路税を支払っている。1,000マイルしか運転しない人も、20,000マイル運転する人も同額負担である。これは不公平である。道路税を廃止し、ガソリン税(自動車燃料税)の引上げによって財源確保すべきである。こうすれば、道路を使う人がより多く税金を負担することを確実にできる。公正なシステムになるばかりではなく、より多くの財源確保にもつながる措置である。

この議論の根底にある原理を正しく説明しているのは次のどれか。

- A. 貧しくて支払えない場合は医療費を無償にすべきである。
- B. 毎日電車通勤をしている人は、時々電車通勤をする人よりも安い運賃を支払うようにすべきである。
- C. 平均賃金の倍のお金を稼いでいる人は、歯の治療費を高額に設定すべきである。
- D. テレビのチャンネルについては視聴契約している人が支払うべき。テレビを見ている人だけ受信料を支払えばよい。
- E. 電話代は、一般家庭よりも法人の顧客に対してより高めの料金を設定すべきである。理由は法人顧客は金もうけのためにシステムを利用しているからである。

www.admissionstesting.org/images/24890-tsa-cambridge-specimen-test.pdf



Cambridge English ケンブリッジ英検

作業部会(第1回)2015年1月27日(火)

31



換算に関する調査研究

CEFRとの関係性

- ケンブリッジ大学英語検定機構は何十年にもわたるCEFRの発展に貢献
- ケンブリッジ英検はCEFRと共に開発され、歴史的にCEFRにマッピングされていると主張できる唯一の英語の語学試験
- ケンブリッジ英検はCEFRを具現化した試験であり、CEFRは部分的にはあるが、ケンブリッジ英検をベースに設計された経緯あり
- CEFRとの関係性は4つの観点*から説明が可能

歴史的観点	Historical relationship	実証的観点	Empirical relationship
-------	-------------------------	-------	------------------------

概念的観点	Conceptual relationship	進化的観点	Evolutionary relationship
-------	-------------------------	-------	---------------------------

* 詳細はウェブサイトwww.cambridgeenglish.org/why-cambridge-english/international-language-standards/ をご覧ください



他試験との関係性

IELTSバンドスコア ケンブリッジ英検 スケールスコア

IELTS band score	Cambridge English Scale scores
9.0	209+
8.5	205-208
8.0	200-204
7.5	191-199
7.0	185-190
6.5	176-184
6.0	169-175
5.5	162-168
5.0	154-161
4.5	147-153
4.0	142-146

- IELTS(アイエルツ)の開発機関でもあることから、関連の調査・研究の結果、IELTSのバンドスコアとケンブリッジ英検のスケールのスコア比較が可能に。



団体受験割引について

- 受験料は各認定試験センターに決定権があるため、試験センターにより異なる場合あり
- 具体的に割引額については、昨今の円安による試験費用増加の影響もあり、厳しい状況が続いている
- 学校様が団体割引を希望される場合には、年間の最少催行人数や会場の状況などにより異なりますが、原則些少なりとも減額できるように努めたい、との考えあり

■ 認定試験センター



2014-15年の受験料

CPE 参考価格25,380円～
 CAE 参考価格22,140円～
 FCE 参考価格19,980円～
 PET 参考価格11,880円～
 KET 参考価格9,720円～



学校が授業にて活用するための テスト開発・提供・分析

- **Cambridge English School**

ケンブリッジ大学出版局の教材を使って授業を行い、その成果をケンブリッジ英検で測る全校生徒300名以上の規模の学校が対象。

認可特典には、**教材や受験料の割引**や教員研修(教材の活用法、試験の効果的利用等に関するセミナー年間各1回の無料実施)などあり。

Cambridge English School
using Cambridge English exams & materials

35



高等学校・中学校の英語力調査事業

- 世界ではポルトガル、フランス、チリ、中国など多数ありますが、日本での事例はなし。

36



CEFRに完全準拠した英語4技能試験 例) Key for Schools (A2)～ Advanced(C1)

※Proficiency(C2)以外を示しています

Key for Schools (A2) 計約 1時間 50分

	問題数	解答時間
リーディング &ライティング	35 20	1時間10分
リスニング	25	約30分
スピーキング	2	8～10分

Preliminary for Schools (B1) 計約 2時間 12分

	問題数	解答時間
リーディング &ライティング	35 5	1時間30分
リスニング	25	約30分
スピーキング	4	10～12分

First for Schools (B2) 計約 3時間 29分

	問題数	解答時間
リーディング	52	1時間15分
ライティング	2	1時間20分
リスニング	30	40分
スピーキング	4	14分

Advanced (C1) 計約 3時間 55分

	問題数	解答時間
リーディング	56	1時間30分
ライティング	2	1時間30分
リスニング	30	40分
スピーキング	4	15分

<読む>Key(A2)とPreliminary(B1)のみマークシート形式。それ以上のレベルではマークシートと記述の両形式で解答。
 <書く>全てのレベルで記述式。
 <聞く>全てのレベルでマークシートと記述の両形式で解答
 <話す>ペア面接。